

たけのこだより

京都市立竹田小学校
校長 大西 一幸

後期学校教育アンケートの結果を振り返って

保護者の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は本校教育活動にご理解・ご協力いただき誠にありがとうございます。後期の学校評価の結果をまとめましたので、お知らせします。お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。学校教育アンケート(児童・保護者・教職員)の結果は、重要度(「重要である」「やや重要である」を合わせた数値)、実現度(「よくできている」「大体できている」を合わせた数値)が全体に占める割合で表しています。

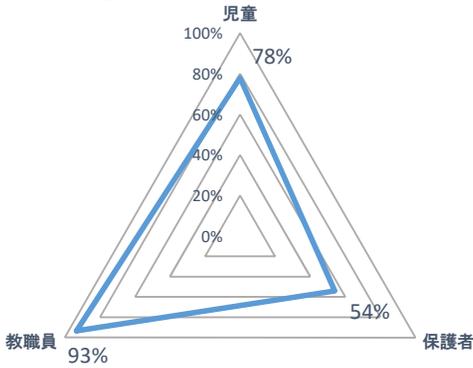
質問項目	前期		後期		前期			後期		
	保護者	教職員	保護者	教職員	児童	保護者	教職員	児童	保護者	教職員
	重要度		重要度		実現度			実現度		
① じゅぎょうにまじめにとりくみ、はなしをしっかりと きいたり、はっぴょうしたりしている	99%	100%	99%	100%	87%	75%	94%	89%	75%	100%
② ともだちときょうりよくしてべんきょうしている	98%	100%	99%	100%	92%	83%	94%	94%	84%	100%
③ いえでかならずしゅくだいやじしゅがくしゅうをし ている	99%	100%	99%	100%	89%	82%	94%	93%	85%	87%
④ ほんをよくよんでいる	98%	100%	97%	100%	86%	55%	94%	78%	54%	93%
⑤ まわりのひとにすすんであいさつしている	100%	100%	99%	100%	82%	82%	95%	83%	82%	100%
⑥ やくそくやきまりをまもっている	100%	100%	100%	100%	92%	88%	94%	95%	87%	100%
⑦ はやね・はやおきをし、ごはんをしっかりとべてい る	100%	100%	100%	100%	86%	76%	100%	89%	79%	94%
⑧ すすんでうんどうしている	97%	100%	98%	100%	91%	70%	89%	88%	67%	88%
⑨ ともだちとなかよくあそんでいる	97%	100%	98%	100%	94%	93%	94%	96%	93%	100%
⑩ いえのひととよくはなしている	100%	100%	100%	100%	94%	93%	94%	93%	93%	93%
⑪ こまったときはせんせいにそうだんしている	99%	100%	99%	100%	77%	86%	100%	77%	90%	100%

重要度の集計結果から

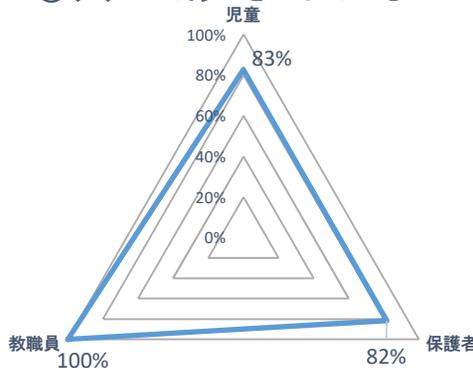
保護者・教職員のみ

今回も、教職員におきましては、すべて重要であるという認識をもって教育活動に当たっている一方で、保護者の皆様のアンケート回答につきましても、97%以上の方から全項目において重要であるというご意見を頂きました。また、多くの項目で、以前より重要度の項目が上昇する傾向が見られました。今後も、家庭と学校が協力して、実現できるようにしていきたいと考えています。

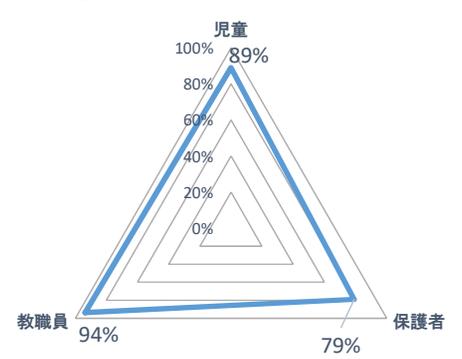
④ほんをよくよんでいる



⑤すすんであいさつしている



⑦はやね・はやおき・ごはん

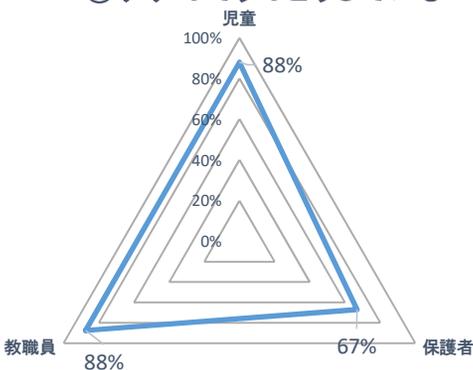


読書についての項目においては、保護者の重要度が唯一1%下がっていました。児童の実現度においても、前期より少し下がったことが気になる項目です。さらに、児童回答の詳細を見ると、「よくできている」が76%から50%へ、「大体できている」が17%から28%となり、前期よりも後期の方が、子どもたちが読書をする時間が減少しているのではないかと考えています。子どもたちが読書に親しむということとはとても大切なことです。学校でも子どもたちへ読書の働きかけをすること共に、ご家庭でも子どもたちへの働きかけをお願いします。

全体的には、前期とほぼ変わらない傾向にあるという結果が見取れますが、肯定的な回答が若干増加していることがわかります。児童回答の詳細を見ると、「よくできている」が49%、「大体できている」が34%となっており、前期よりも「よくできている」と回答した児童の数が減っていることが気になります。教職員は、あいさつできる児童が増えたという認識が、今後も子どもたちのすてきなあいさつが飛び交う学校・地域になっていくことを願って、働きかけを続けていきます。

後期の回答結果において、早寝早起き食事の習慣化が、前期よりも改善されてきているという結果が見られました。保護者も教職員も、早寝早起き食事の基本的な生活習慣が、とても重要であると考えていることから、子どもたちの意識が高まっていると考えられます。実現度において、保護者・児童共に、3%の上昇が見られたことは、保護者回答の重要度の大きな変化が押し上げていると思われる。

⑧すすんでうんどうしている



自由記述欄から

(いただきました全てのご意見は教職員全員で共有しております。)

「子育て・就寝時刻」「家庭学習の習慣化」「ホームページの更新」「自主学習の内容」「子どもたちの行動」「安全面」など、ご意見やご指摘を真摯に受け止め、今後の教育活動に活かしていきます。

学校運営協議会理事会より

子どもたちのあいさつの項目が少し改善されたという結果は、よいことだと感じる。今後も、大人が様々な面でよい手本を示していかなければならない。見守り活動や近所での声かけを引き続きしていくので、一層あいさつが広がっていけばよいと思う。また、子どもたちの安全面を守るということにおいても、家庭・地域・学校で協力していきたい。

学校教育アンケート全体を通して

昨年度のアンケートから自己評価する形式となりました。今年度のアンケートの回答をみて、教職員や保護者が、子どもたちの健やかな成長を見守っていく上で、11のアンケート項目1つ1つの内容が大変重要であるという認識が前期よりも後期へと深まっていることを確認することができました。普段の生活の中で、子どもたちと実際にどのように声かけや働きかけを行っていくのかは、まだまだ課題はありますが、今後も子どもたちへのよりよい関わり方、働きかけの仕方を考えていくよい機会となっていることをアンケートの記述欄からも実感できました。定期的に行っている懇談会や、本校で実施している「ほっこり子育てひろば」などで、子どもたちへの関わり方などについて交流し、教職員と保護者の皆様とが情報交換をしながら、子どもたちへの理解を深め、働きかけについても一緒に考えていければと思います。

教職員におきましては、児童がよりよい学校生活を実現する姿を見つめ直し、よりよい働きかけをしていけるように、今後も家庭と学校とが連携し、子どもたちを見守っていきたくて考えています。どうぞよろしくお願い致します。

後期のアンケート結果で、最も気になったのが、こちらの項目です。実現度が児童・保護者・教職員ともに減少していました。アンケートをとったのが冬場であるということも考慮しても、減少傾向にあるということは、今後改善を図る視点で働きかけを行っていく必要があると考えています。今後も、学校での体育の授業だけでなく、「あさかつ」の取組や、部活動への働きかけ、外遊びの推奨など、子どもたちが体を動かす機会を充実させていきたいと考えています。